

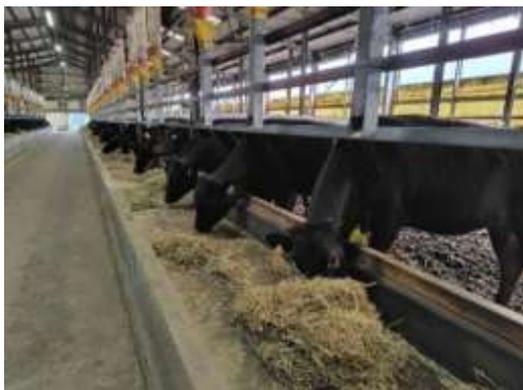
ユーザー紹介

うだ 合名会社 宇陀牧場さん

今回のユーザー紹介は、奈良県宇陀市で肥育農場を経営されている合名会社宇陀牧場さん（井上源次代表）です。

奈良県東部の宇陀地方は、吉野川、淀川、大和川の分水嶺になり、澄んだ空気、清らかな水に恵まれ、飛鳥時代は皇族・貴族の狩場としても有名な「阿騎野（あきの）」と呼ばれた歴史の彩り豊かな桃源郷です。

そんな恵まれた土地において昭和43年、宇陀牧場は1頭の牛から始まりました。創業以来、安心・安全はさることながら、美味（脂質・旨味・香り）を追求し続け、今日では900頭の雌牛を飼育しています。



素牛（子牛）は主に栃木や宮城、沖縄の市場から美味しそうな血統や発育状態などを厳選して導入。牧場で約22か月（660日）肥育した後（31～32か月齢頃）、神戸や京都食肉市場などへ出荷しています。

牧場の経営理念はずばり、
「食べて美味しい牛を育てること。そして、そのお肉が人に喜ばれること」です。

飼料は原材料から配合割合までこだわり、スタッフと共に愛情をこめて育て、お肉の味は関西を中心に高い評価を得ています。

井上源次代表は「とは言っても特別なことをしている訳ではありません。ただ、他と違うところは、牧場が標高400mの中山間にあるため、水（湧き水）と空気がとても綺麗なところ。」と、仰っています。

それは導入期にしっかり粗飼料を食い込ませて見事な腹をつくり、その後の絶妙なエサの切り替え、牛群頭数の変更（4～6頭→2頭）など、個体（飼養）管理がしっかりできて、突き詰められているからこそ、そう感じているものと思われます。

結果、食い込みが安定し、出荷を迎える頃には美味しそうな立派な牛（体型）に仕上がってくるのです。

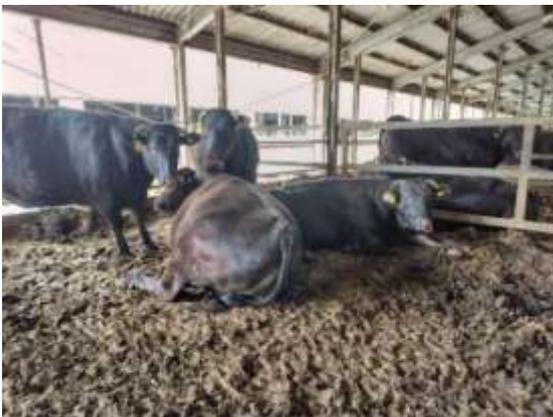


そんな合名会社宇陀牧場さんがアースジェネターを始めたきっかけは、約20年前にさかのぼります。ある屋根の低い牛舎の臭気が強く困っていた時、丁度コンサルに来ていた(有)シェパードの松本獣医師にアースジェネターを紹介されました。(当時の弊社担当は、佐藤隆司顧問)

早速、その牛舎で試験的に給与を開始したところ、約1か月半後に早くも臭気(アンモニアなど)が減少したそうです。

その変化を目の当たりにし、牛の消化吸収(飼料効率)が改善された証しと捉え、『さらに牛が良くなるはず!』と、すぐさま全頭に給与を開始しました。

その結果、半年~1年後には臭気の減少だけでなく、牛の状態や堆肥の発酵までもが改善。さらに、堆肥の品質が向上し、敷料(戻し堆肥)として活用できるようになり、心配していた農場全体の臭気も大幅に減少していきました。



最後に井上源次代表に今後の展望をお伺いしました。

引き続き経営理念である

『食べて美味しい牛づくり。そして、そのお肉が人に喜ばれること』

に磨きをかけ、さらに

『カッコいい肥育農家さんを目指し、その姿を息子に見せることができれば!』

と思っておられます。

そして、10年後にはご息子が成人になるそうですが、

『その時に息子が農場の経営を継ぐか、継がないか選択できるような状態にしたい!』

とのことでした。

果たして10年後はどのようなになっているのでしょうか?

合名会社宇陀牧場さんの今後益々のご活躍をお祈りしています!!

(植田 秋良)

